

平成25年度における人事院の障害者就労施設等からの 物品等の調達を推進を図るための方針

人 事 院

国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律（平成24年法律第50号。以下「法」という。）第6条の規定に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する基本方針（平成25年4月23日閣議決定。以下「基本方針」という。）に即して、平成25年度における障害者就労施設等からの物品等の調達の推進を図るための方針（以下「調達方針」という。）を定める。

1 障害者就労施設等からの物品等の調達の目標

障害者就労施設等（法第2条第4項に規定する障害者就労施設等をいう。以下同じ。）からの物品及び役務（以下「物品等」という。）の調達については、「別紙1」の物品等の種別毎に、前年度の実績を上回ることを目標とする。

さらに、好事例等を人事院内全てに周知徹底すること等により推進に努める。

2 障害者就労施設等からの物品等の調達の推進に関する取組

障害者就労施設等からの物品等の調達について、基本方針に即するとともに、次のとおり取り組むものとする。

（1）調達方針の適用範囲

調達方針は、人事院の内部部局、公務員研修所、地方事務局（所）及び国家公務員倫理審査会事務局の全てに適用する。

調達を担当する課（以下「調達担当課」という。）は、「別紙1」の物品等の品目分類及び調達先の分類を参考に、障害者就労施設等からの物品等の調達を推進する。

（2）随意契約の活用等

物品等の調達に当たっては、予算の適正な使用並びに競争性及び透明性の確保に留意しつつ、法の趣旨に基づいて、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第99条第16号の2を適用して障害者就労施設等と随意契約を締結するなど、障害者就労施設等からの物品等の調達を積極的に推進する。

また、競争に参加する者の資格を定めるに当たっては、障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和35年法律第123号）第43条第1項に規定する法定雇用障害者数以上の障害者を雇用していること又は障害者就労施設等から相当程度の物品等を調達していることを考慮するものとする。

(3) 障害者就労施設等からの物品等の調達の推進体制

障害者就労施設等からの物品等の調達を推進するため、事務総局に「別紙2」のとおり人事院障害者就労施設等からの物品等の調達推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

委員会においては、1の目標達成に向けて、調達方針の作成、調達実績の概要の取りまとめ、情報の提供等及び各調達担当課に対する指導等を行う。

(4) 公務員研修所及び地方事務局（所）における調達

公務員研修所及び地方事務局（所）において使用される物品等については、公務員研修所及び地方事務局（所）における障害者就労施設等からの調達を促進するため、例えば、地域における障害者就労施設等に関する情報を収集し、障害者就労施設等から調達可能な物品等を検討すること等により、当該公務員研修所及び地方事務局（所）が存する地域周辺の障害者就労施設等の受注機会の増大に努める。

(5) 調達実績の報告、取りまとめ及び公表の方法

- ① 各調達担当課は、会計年度終了後に、前年度の障害者就労施設等からの物品等の調達実績を事務総局会計課に報告する。
- ② 事務総局会計課は、①による各調達担当課からの報告を取りまとめ、法第7条第1項に基づき、その概要を速やかに人事院ホームページに公表するとともに、厚生労働大臣に通知する。

物品等の品目分類及び調達先の分類

【物品等の品目分類】

| 種別 | 品 目 | 具 体 例 |
|--------|---------------|---|
| 物 品 | ① 事務用品・書籍 | 筆記具、事務用具、用紙、封筒、ゴム印、書籍 など |
| | ② 食料品・飲料品 | 弁当、飲料 など |
| | ③ 小物雑貨 | 衣服、清掃用具、防災用品、非常食 など |
| | ④ その他の物品 | 机・テーブル、椅子、キャビネット、ロッカー等上記以外の物品 |
| 役 務 | ① 印刷 | ポスター、リーフレット、冊子、封筒などの印刷 |
| | ② クリーニング | クリーニング、リネンサプライ など |
| | ③ 清掃・施設管理 | 清掃、除草作業、施設管理 など |
| | ④ 情報処理・テープ起こし | ホームページ作成、プログラミング、データ入力・集計、テープ起こし など |
| | ⑤ 飲食店等の運営 | 売店、レストラン など |
| | ⑥ その他のサービス・役務 | 仕分け・発送、袋詰・包装・梱包、筆耕、文書の廃棄（シュレッダー）、資源回収・分別 など |

【調達先の分類】

| | | |
|---|--------------|--|
| a | 就労継続支援A型・B型 | 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号。以下「障害者総合支援法」という。）第5条第14項に規定され、一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う事業所。 |
| | 就労移行支援 | 障害者総合支援法第5条第13項に規定され、一般企業等への就労を希望する人に、一定期間就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な支援を行う事業所。 |
| | 生活介護 | 障害者総合支援法第5条第7項に規定され、常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排泄、食事の介助等を行うとともに、創作活動又は生産活動の機会を提供する事業所。 |
| | 障害者支援施設 | 障害者総合支援法第5条第11項に規定する障害者支援施設（就労移行支援、就労継続支援、生活介護を行うものに限る。）。 |
| | 地域活動支援センター | 障害者総合支援法第5条第25項に規定され、創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流等を行う事業所。 |
| | 小規模作業所 | 障害者基本法（昭和45年法律第84号）第2条第1号に規定する障害者の地域社会における作業活動の場として同法第18条第3項の規定により必要な費用の助成を受けている施設。 |
| b | 共同受注窓口 | 受注内容に対応可能な複数の障害福祉サービス事業所にあっせん・仲介する業務を行う。 |
| c | 特例子会社 | 障害者の雇用に特別の配慮をし、雇用される障害者数や割合が一定の基準を満たすものとして厚生労働大臣の認定を受けた会社。 |
| | 重度障害者多数雇用事業所 | 重度身体障害者等を常時労働者として多数雇い入れるか継続して雇用している事業主。 |
| | 在宅就業障害者 | 自宅等において物品の製造、役務の提供等の業務を自ら行う障害者。 |
| | 在宅就業支援団体 | 在宅就業障害者に対する援助の業務等を行う団体。 |

障害者就労施設等からの物品等の調達推進体制

人事院障害者就労施設等からの物品等の調達推進委員会

委員長：総括審議官

副委員長：事務総局会計課長

委員：事務総局総務課長

職員福祉局職員福祉課長

人材局企画課長

給与局給与第一課長

公平審査局調整課長

公務員研修所教務部長

国家公務員倫理審査会事務局首席参事官

各調達担当課